

日系プロジェクト委員会発行

日系カナダ人百年史
千金の夢

多田 正俊

本書は、日系カナダ移民百年祭（一九七七年）を記念して出版された写真集である。縦二十九センチ、横二十二センチで百九十ページ。一八七七年（明治十年）から百年間にわたる日系人の記録写真二百六十八枚（これらは、一昨年の移民百年記念行事のひとつとして、カナダと日本で展示された）が、四つの時代に区分され、収録されている。収録写真の大半は個人所有で、記念撮影が多いが、ほかにプリティッシュ・ユニオン・コロニア大学、トロントの日系文化センターなど公共機関からも集められた、全部で四千枚以上の写真から厳選されたという。英語、日本語、フランス語の表題がつけられているほか、写真説明も、小学生の作文、短歌、日系人の証言録が三カ国語で併記され、時代や当時の状況説明を効果的に盛りあげている。

本書は、日系カナダ移民の歴史を扱った初めての本格的な写真集として、出版そのものが高く評価できる。同様の写真集出版の声は、日系人の間で早くから望まれていたといわれるが、カナダ全土に散った日系人から個人所有の記録写真を入手するのは難作業で、実際に手をつける人がいなかった。それに取り組んだのが、百年祭をきっかけに地道な収集作業を続けた、バンクーバー在住の新移住者、そして二、三世の若いグループ十八人である。三年がかりでやっとトロントの出版社から発行にこぎつけた努力は、大いに買いたい。

本書のうち、記録として価値が高いのは、移住初期とカメラの個人所有が禁止されていた太平洋戦争中の写真だろう。白人にまじつての鉄道敷設作業、あとけなさが残る写真花嫁、日本人排斥運動でこぼれに破られた窓ガラスの建て物などの写真には、移民の汗と涙の証といったものが感じられる。第一次大戦で欧州戦線に出兵した義勇兵の写真は、いまとなつては貴重な資料である。第二次大戦の強制収容所時代の写真はとくに圧巻といえる。この時代の写真二十四枚は、重要な歴史的位置を占めるとみえ、写真のすべてが太いワクで囲まれている。人形を抱いてキャンプに移動する少女、射殺の目印とされた日の丸入りの収容所服を着せられて死者を埋葬するスナップなどは、何回見ても胸に迫るものがある。

全体に日系人の苦難の歩みとカナダへの同化に焦点がおかれ、百年にわたる労

苦、みじめさ、たくましさ、喜び、希望といった日系人の心が凝縮されているように思う。

しかし、難点は、写真と説明文のすべてがセピア調に統一されていることだろう。歴史の芸術的な表現方法と受け取れなくはないが、人間のドラマをつづる写真は、白黒のままの方がより訴える力を持つ。一枚の白黒写真はその扱い方いかんでは、セピア色よりもはるかに迫力があり、われわれをより深く考え込ませる。この点、すべてをセピア調に、しかも大ききも各ページほぼ同一にしたのは、単調さを免れない。時代の区切りにも、もう工夫はしなかった。

（読売新聞大阪本社記者）

No Man Alone, A Neurosurgeon's Life

By Wilder Penfield
(Little, Brown & Co. Ltd.)

世界的な神経外科医で、手術によるてんかん治療法を発見した故ペンフィールド博士の自伝。てんかんが外科手術で治療できることを発見したいきさつ、脳細胞の配置や記憶貯蔵の仕組みを見つけたいきさつなどが、生き生きと描かれている。

Borden: His Life and World

by John English
(McGraw-Hill Ryerson Ltd.)

第一次世界大戦のときカナダの首相をつとめたロバート・ボーデンの伝記。当時、カナダはフランス系住民が徴兵制導

人に猛烈に反対し、カナダはナショナリズムに熱狂するイギリス系国民と、それに反発するフランス系国民の二つに分裂していた。特にオンタリオ州の保守党政権が公立学校でのフランス語教育を廃しようとしていたこともあって、フランス系国民の怒りは大きかった。現在でも保守党がケベックで不評なのは、当時の政策に一因があるといわれている。

カナダ文献目録

図書館などへ発送



日本語で書かれた単行本、政府刊行物、論文、雑誌記事などをリストアップした「カナダ関係邦語文献目録」は、すでに発行され、その一部が各地の図書館、大学、研究機関などに発送された。

一〇二ページの小冊子で、カナダの社会、経済、政治、日加関係、歴史などに関する本、論文、記事が、著者、標題、発行元、発行年代、ページ数の順序で記載されている。カナダ関係のまとまった文献目録としては、初めてのものである。

前号でお知らせしたように、文献目録は希望者に無料で送付しているので、欲しい方は当広報部宛てハガキで申し込まれたい。